

ケアポート板橋 特養5階

症 例 概 要 90代 女性 介護度5

アルツハイマー型認知症（70歳代）、糖尿病、高血圧

ケアポート板橋特養5階（令和6年1月末～令和6年8月上旬）

令和6年1月有料老人ホームを退所され、ケアポート板橋5階に入所となる。

内 容

令和6年1月末に、有料老人ホームよりケアポート板橋5階に入所。前施設では個室にて一人で過ごされる事が多く、ご家族より他ご利用者さんとの関りや刺激を感じて貰いたいとご意向がありました。フロア体操やフラワーアレンジクラブなど、ご本人の希望されるクラブに参加されることで、離床時間は延長していきました。

入所から3ヵ月、徐々に体力は低下傾向となり、食事以外の時間を居室で過ごす事が増えていきました。フラワーアレンジクラブへの参加は旦那様より、「無理してまでの参加はして欲しくないなあ。」と聞かれた為、居室でも充実した時間を過ごすことができることを、旦那様含め検討しました。

花瓶を用意して日替わりで花を飾り、体調の良い時には車椅子で外気浴へ。ご本人のお好きな曲を旦那様より教えて頂きリストを作り、職員が関わる際にはIpadで映像と曲を流し、穏やかな時間が流れる空間と致しました。小さな声ではありますが、唄われたり、リズムに合わせて首を動かされる時も見られておりました。

食事においては、摂取後に遅れてむせ込みがあるため、以前の施設においては毎食吸引対応でしたが、管理栄養士よりハーフ食及び嚥下状況に合わせた補食提供へすぐに変更し、介助スピードの調整や日々の状態に併せた介助の実施により、吸引の必要性はなくなりました。また入所時からあった臀部の褥瘡は、看護の適切な処置、OTのポジショニング及びシーティング、管理栄養士のカロリーコントロール、エアマットの使用、介護は臀部の摩擦部位について憶測を立て、完治することに成功致しました。

7月のお誕生日にご自宅へ外出できないかとご家族より希望があったが、外出の2日前に多量の排便により、意識レベルが急激に低下。外出の前日には何とか体調が回復し、看護師の許可のもとご自宅へ帰ることができました。「本当に家に連れて帰れてよかったです。」と涙ながらに感謝のお言葉を頂きました。

7月後半、痰絡みが増え体力は低下。発熱が続きお看取りも近づいてきていました。ご家族は頻繁にご面会され、共に楽しまれた外気浴を実施。満面の笑みを見せて下さいました。その夜、旦那様は施設に泊まれ、見守られながら息を引き取りました。娘様、ひ孫様も来所され、賑やかな雰囲気の中でお化粧し、皆で送り出しをしてく下さいました。

看取りとは、ご本人が希望する「自分らしい最期」を迎えられるように、息を引き取るまで身体的・精神的な苦痛を緩和するためのケアを目指します。今回の事例では、ご本人、ご家族の意向に寄り添いながらケアにあたり、多職種がそれぞれの専門性を持って対応を行った、「質の高いチームケア」そのものであると考え、キラキラ介護賞に推薦いたします。